

公雨第 7-4 号

鴨島第一排水区雨水排水ポンプ機械設備工事

特 記 仕 様 書

令和 7 年度

機械設備工事

第1節 一般事項

1. 概 要

本工事は、ポンプ場の機械設備の新設工事であり、新設工事に必要な一切の機械設備工事を行うものである。

2. 機器構成

本工事に含まれる機器は次の通りとする。

(1) ポンプゲート

・ No. 1, 2 雨水ポンプ	2 台
・ ローラーゲート	1 門
・ 開閉装置	1 台

(2) 自動除塵機

・ 自動除塵機	1 台
・ 引上装置	1 台

(3) コンテナ

2 台

3. 工事範囲

本工事の施工範囲は、次の通りとする。

(1) 前項記載の各機器の製作および据付工事

(2) その他上記に伴う諸工

[除外工事]

(1) 水路築造工事

(2) その他の土木、電気設備工事

4. その他

(1) 本仕様書に特に定めのない事項については、設計図書及び日本下水道事業団機械設備工事一般仕様書（最新版）（以下、機械設備工事一般仕様書と呼ぶ）、日本下水道事業団機械設備必携（最新版）（以下、機械設備工事必携と呼ぶ）を準用する。

(2) 提出書類については、本工事において請負者は、機械設備工事一般仕様書に記載した書類を提出すること。その他、提出が必要なものについては監督員の指示による。

第2節 機器仕様

§1 ポンプゲート

1. 使用目的

本ポンプは、ゲートと一体として使用するものである。ゲート部は水路に設けポンプ部の昇降及び止水を行い、ポンプ部はスクリーンを通過し浮遊物等を除去した雨水を排水するものである。

2. 仕様

2-1 ポンプ部

項 目	仕 様	備 考
(1) 形 式	全速全水位型横軸水中ポンプ	
(2) ポンプ呼び径	φ 500 mm	
(3) 吐 出 し 量	30 m ³ /min	
(4) 全 揚 程	2.6 m	
(5) 起 動 方 式	特殊コンドルファ始動	
(6) 電動機出力	30 kW	
(7) 電 源	3 φ × 200 V × 50 Hz	
(8) 数 量	2 台	

2-2 ゲート部

項 目	仕 様	備 考
(1) 形 式	ステンレス製ローラーゲート	電動ラック式
(2) 呑 口 寸 法	幅 2250mm×高 2500mm	
(3) 設 計 水 深	外水位 4381mm 内水位 0mm	呑口底基準
(4) 操 作 水 深	開時：外水位 1900mm 内水位 2900mm 閉時：外水位 5881mm 内水位 2900mm	呑口底基準
(5) 揚 程	2600mm	
(6) 水 密 方 式	前面 4 方水密	
(7) 開 閉 方 式	電動ラック式	
(8) 電動機出力	0.8kW 程度	
(9) 電 源	3φ×200V×50Hz	
(10) 開 閉 速 度	約 0.3 m/min	
(11) 開 度 発 信 機	有 ・ 無	
(12) 開 閉 装 置	2 連式	
(13) フラップ弁	φ 700mm	1 門に対して 2 台
(14) 数 量	1 門	

3. 構造概要

3-1 ポンプ部

本ポンプは、雨水を排水するもので全速全水位型とし、吸込水位に関わらず連続運転に耐える堅ろうな構造とすること。

ポンプは、振動や騒音が少なく、円滑に運転できるとともに、有害なキャビテーション現象が発生しないような構造とすること。

3-2 ゲート部

ゲートは、ゲート本体、同ラック棒、フラップ弁、開閉装置等よりなるもので、水路に設置し、河川からの逆流防止及び接続されたポンプの昇降が可能な構造とする。

なお、フラップ弁は維持管理にてポンプを取外した場合にゲートとしての止水機能を保持するため、ゲート本体に取付けた構造とする。

4. 製作条件

4-1 ポンプ部

- (1) 流入水はスクリーンを通過し、浮遊物等を除去した雨水とする。
- (2) ポンプは全速全水位制御とし、吸込側の水位にかかわらず、全速で連続運転が可能で、吸込側の水位に応じて、「全量排水運転」「気水混合排水運転（水面から吸込んだ空気と水を混合して排水）」、「排水待機運転（排水せずに運転を継続）」の3つの状態がスムーズに移行できるものとする。
- (3) ポンプは電気制御を要せずに全速全水位運転を行い、水位を低く保つとともに、急激な雨水の流入に備える事が可能なものとする。
- (4) 水位計が故障した場合でも継続した運転が可能であること。
- (5) 低水位または排水が無い時は、一定時間経過後、タイマーにより自動停止させること。

4-2 ゲート部

- (1) 扉体の強度計算は、圧力側に指示した水位の水圧がかかり、反対側には水圧がないものとして計算する。
- (2) ゲート操作するときに要する動力は、扉体の前後の水位差が指示した時の水圧及びラック棒を含めた自重等の負荷から計算する。
- (3) ラック棒の強度計算の基準は電動機の定格出力時の発生力とし、安全率は4.0以上とする。
- (4) 電動開閉機の方式はラック式とし、開閉速度は約0.3m/minとする。

5. 各部の構造

5-1 ポンプ部

(1) 駆動装置

- 1) ポンプに使用する電動機は、乾式水中誘導電動機とし、羽根車より下流に配置とする。
- 2) 始動方式は特殊コンドルファ方式とする。
- 3) 排水待機運転を1時間以上連続して行っても、異常温度上昇を検知しないこと。

(2) 本体

1) ケーシング

ケーシングは、内部圧力及び振動等に対する機械的強度並びに腐食・摩耗を考慮した良質の鋳鉄製品とする。

羽根車より上流側に異物の絡みとなるリブ等を設けないこと。

2) 羽根車

羽根車は、良質なステンレス鋳鋼製とし、摩耗、腐食に対して十分な強度を有するものとする。

羽根車は、極力羽根数を少なくし平衡を十分とるとともに表面を滑らかに仕上げること。

3) 主軸

主軸は、原則として電動機軸を延長したもので、水平に配置し、伝達トルク及び振り振動に対しても十分な強度を有すること。

4) 軸封装置

軸封部には、メカニカルシールを用い、運転中、停止中を問わず、異物が電動機内に浸入しないようにする。またシール等の取替えは容易に行える構造とする。

5) 軸受

回転部質量及び水力スラストは、電動機に内装した軸受にて支持するものとし、吸込水位に関係なく長時間の連続運転に耐え、円滑なる自己潤滑ができる構造とすること。

6) ポンプ取付け

ポンプはステンレス製ローラーゲートに、ボルトにて強固に取付けた構造とする。

なお、ポンプを取付けた際の形状は、流入水路に対してポンプ本体中心軸が水平でかつ、ゲートの取付け面に垂直となる形状とする。

5-2 ゲート部

(1) 扉体

- 1) 扉体は、スキンプレート、横主桁、縦補助桁、端縦桁から構成されたプレートガータ構造の全溶接とする。
- 2) 扉体の主桁は、水溜まりが生じないよう、適切な位置に水抜き穴を設けるものとする。
- 3) 主桁の水圧荷重によるたわみは、径間の $1/800$ 以下とする。

(2) 水密構造

- 1) 水密ゴムの材質は合成ゴムとする。
- 2) 良好な水密を保持するため、側部ゴムと底部ゴムの止水線は連続させるものとする。

(3) 戸当り

- 1) 戸当りはコンクリート面に固定されゲート本体を支持すると共に開閉時ゲート本体をガイドする機能を持つものとする。
- 2) 締切時には戸当りの水密部は適切な水密確保ができる精度とする。

(4) ラック棒

- 1) ラック棒は最大水圧が作用しているときに於いて、ゲートを円滑かつ安全に開閉するに十分なる強度を有するものとする。
- 2) ラック棒の中間に振れ止め金具を取り付ける場合は、鋼板製のものとする。

(5) 電動機開閉装置

- 1) 扉体の開度設定位置で、確実に作動するリミットスイッチを設けること。リミットスイッチは調整可能なものとし、全開、全閉の位置でゲート開、閉表示ランプを点灯する接点及びスペースヒータを設ける。
- 2) 開閉作動中、電動機にかかるトルクが異常に増加した場合は、トルクスイッチにより確実に電動機を停止させる機構とする。なおトルクスイッチが作動するトルク値は、調整可能なものとし、開閉両方向にも作動する構造とする。
- 3) 手動によってゲートの操作を行う場合には、安全性を確保できる機構とする。

- 4) 手動操作はハンドホイールにより行う方式とし、約 100N 以内の力で開閉することができる構造とする。
 - 5) スタンド部及びギヤボックス部は、鋳鉄製または鋼製とし、歯車は耐摩耗性の高い特殊鋳物または特殊鋼製とする。
 - 6) ハンドホイールには回転方向を指示するマークを付けること。ただし、ハンドルは右回しにて扉体開とする。
 - 7) 開度指示計はダイヤル式とし、開度計発信器 (R/I 変換器内蔵型) を設ける。
開度指示計は、要部ステンレス製 (SUS304) とし、目盛はミリメートル表示とする。
開閉速度は、約 0.3m/min とし、適当な速度を選定するものとする。
 - 8) 各部の強度計算 (ラック棒の強度計算を含む) は安全を考慮して、電動機の定格トルクを基準とし、余裕有る強度とする。
 - 9) 電動機は、全閉防まつ形 (IP44) ・外被表面冷却自冷形三相誘導電動機 (かご形) とし定格 30 分 (標準) ブレーキ付とする。
 - 10) 開閉装置の上部にはステンレス製のラックカバーを取り付けるものとする。
 - 11) ゲート本体の自重降下による緊急閉鎖機構装置を設けるものとする。
- (6) フラップ弁
- フラップ弁はスイング式構造とし、ポンプ停止時の水の逆流を防止するため、強い衝撃に耐える堅ろうな構造とする。

6. 使用材料

使用材料は次による。

6-1 ポンプ部

- | | |
|-----------|------------|
| (1) ケーシング | (FC250) |
| (2) 羽根車 | (SCS13) |
| (3) 主軸 | (SUS420J2) |
| (4) 吸込カバー | (SS400) |

6-2 ゲート部

- | | |
|--------------------|-----------------------------------|
| (1) 扉体 | 形鋼及び鋼板 (SUS304) |
| (2) 戸当り | 形鋼及び鋼板 (SUS304, コンクリート埋設部は SS400) |
| (3) ローラー | (SUS304) |
| (4) 水密ゴム | (合成ゴム) |
| (5) ラック棒 | (SUS304) |
| (6) ラックカバー | 形鋼及び鋼板 (SUS304) |
| (7) フラップ弁 | 形鋼及び鋼板 (SUS304) |
| (8) 振れ止め金具 (必要な場合) | (SUS304) |
| (9) 開閉装置架台 | 形鋼及び鋼板 (SS400) |

7. 保護装置

7-1 ポンプ部

- (1) 異常温度上昇を検知する保護装置を内蔵すること。
- (2) 電動機内への水の浸入を事前に防止する浸水検知器を設け、故障表示が可能な構造とすること。
- (3) 異常温度上昇及び浸水による故障を個別に表示可能な構造とすること。

7-2 ゲート部

- (1) 電氣的、機械的安全装置及びその詳細は各部構造参照

8. 試験、検査

本ポンプの検査は、機械設備工事一般仕様書に基づいて行うものとし、製作工場にて組立完了後 JIS B 8301 に準拠した性能試験を行う。吐出し量、揚程については、JIS B 8301 判定基準による能力とする。

ゲート部の検査は機械設備工事一般仕様書を参照し、監督員との協議により実施するものとする。

9. 塗装

機械設備工事一般仕様書による。

ゲートの開閉スタンド内面には、錆止め塗装を施す。

10. 据付け

本機器の据付けは、機械設備工事一般仕様書及び機械設備工事必携に基づいて行うものとするが、特に次の点に留意する。

開閉装置、ラック棒用中間振れ止め金具等のアンカーボルトの取り付けは、充分強度を保持できるよう考慮する。なお施工前、溶接完了時、施工後それぞれの状態で監督員の検査を受け、写真撮影する。

11. 他工事との区分

11-1 ポンプ部

- (1) 電気設備工事との区分

端子箱及び端子箱までの水中ケーブルは、本工事に含むものとし、それ以降の配線接続は電気設備工事とする。

11-2 ゲート部

- (1) 土木、建築工事との区分

1) ラック棒用振れ止め金具、開閉装置据付け用基礎ボルト等、必要なはつりは本工事の範囲とする。

2) 基礎ボルト埋込、埋込用モルタル及び据付調整用モルタルは本工事に含む。

- (2) 電気設備工事との区分
機械設備工事一般仕様書による。

12. 標準付属品

12-1 ポンプ部（1 台につき）

- (1) 水中ケーブル（ポンプ付属ケーブル） 1 式
(2) 端子箱 1 個

12-2 ゲート部（1 門につき）

- (1) 基礎ボルト・ナット 1 式
(2) フラップ弁 1 式
(3) ケーブルベア（樹脂製） 1 式
(4) 開閉装置架台 1 式

§ 2 自動除塵機

1. 使用目的

自動除塵機は、流入した雨水中の浮遊物を阻止し、かき揚げるのを目的とするものである。

2. 仕 様

項 目	仕 様	備 考
(1) 形 式	ダブルチェーン式前面かき揚げ型	(引上装置付)
(2) 池 寸 法	水路幅 2250mm×深さ 2900mm×1 池	
(3) ス ク リ ー ン	目幅 50mm×取付角度 75°	
(4) 速 度	かき揚げ 3.0m/min	
(5) レ ー キ 幅	1850mm	参考
(6) 駆 動 装 置	3 φ × 1.5kW × 200V × 50Hz	参考 自動除塵機
	3 φ × 0.75kW × 200V × 50Hz	参考 引上装置
(7) 駆 動 装 置 屋外カバー	○ 有 ・ 無	
(8) 数 量	1 台	

3. 構造概要

自動除塵機は、本体フレーム、駆動装置、レーキ、チェーン、軸、スプロケットホイール、スクリーン及び補助スクリーン等よりなるもので、流入した雨水中の浮遊物を阻止し、連続的にレーキにてかき揚げ、コンテナに排出するもので、自動除塵機本体を水路より引き上げ、係留できる構造とする。

4. 製作条件

- (1) 本装置の各部の強度は、十分な安全率をとるものとする。
- (2) チェーンの強度は、全負荷荷重が片側に掛かったものとして計算する。
- (3) 装置各部の強度は十分であっても、腐食及び摩耗のおそれがある部分は肉厚を考慮する。
- (4) レーキ速度は、約 3.0m/min とする。
- (5) スクリーンの強度は水位差及び流入浮遊物等を考慮し、強度的に問題のない構造とする。

5. 各部の構造

各部の構造は次による。

- (1) 駆動装置

- 1) 駆動装置は、電動機直結サイクロ減速機又は遊星歯車減速機等を使用し、駆動軸への伝動は直結とする。
- 2) 駆動装置用減速機は、フレームカバーの外側に置き周囲に点検台を設ける。
- 3) 減速機が油潤滑の場合、減速機排油弁には、ビニールホース等の接続が可能な短管を取り付け、常時はキャップ止めとしておく。

(2) フレーム

- 1) フレームは形鋼及び鋼板製（厚 9mm 以上）とし、溶接及びボルトで強固に組立、溶接歪、曲り等のない構造とする。
- 2) サイドフレームには、かき揚げ用チェーンのガイドレールを設け、しさのかき揚げ、排出が支障なく行われるよう構造的に十分考慮し製作する。
- 3) フレームに付けるレーキガイドレール（厚 9mm 以上）は、かき揚げ用チェーンのローラが転動するガイド溝を設けたもので、サイドフレーム壁部に設置するものとする。レーキガイドは、かき揚げ側及び戻り側に設ける。
- 4) フレーム上端部には、かき揚げ用チェーンの緊張装置としてスクリュテークアップを設けるものとする。スクリュテークアップは、主軸軸受を摺動して調整するものとし、テークアップ用ねじは台形ネジとする。おねじはステンレス鋼（SUS304）めねじは青銅製のものとする。
- 5) レーキガイドの下部でレーキが、U型チェーンガイド又はスプロケットホイールにて反転する際、チェーンに多少のゆるみができて円滑に転動し、U型チェーンガイド又はスプロケットホイールから離脱しないようにする。
- 6) レーキガイドには、しさが付着しないよう十分考慮するものとする。

(3) エプロン

- 1) レーキにてかき揚げたしさは、スクリーン上端からしさの落下位置までエプロンにて途中、落下停滞することなく、効率よく搬出できる構造とする。
- 2) エプロンは、鋼板（厚 9mm 以上）製で裏面に必要に応じて形鋼製支持材を設け、ひずみのないものでフレームに強固に取り付けるものとする。

(4) かき揚げ用チェーン、スプロケットホイール

- 1) かき揚げ用チェーンはブシュドローラチェーン又はブシュドチェーンとする。チェーンの強度は全負荷荷重が片側に掛けられた場合にも安全なものとし、保証（最低）破断強度は 226kN 以上でプレート、ローラ、ピンともステンレス鋼製としピッチは 152.4mm とする。
- 2) かき揚げ用チェーンには、レーキ取付け用アタッチメントを組み込む。
- 3) スプロケットホイールは、耐摩耗性の高いステンレス鋼又はダグタイル鋳鉄製（歯面ステンレス製）とし歯数は 11 枚以上とする。
- 4) 下部にスプロケットホイールを用いる場合は、歯数、材質は前項と同様とするが、軸穴には青銅、アルミニウム青銅又はオイルレスベアリング等の耐摩耗性の高いブシュをはめ込み、異物の流入を防止するため、シール装置を設ける。

なお、軸受は池上部より給油できるものとする。

- 5) 下部にスプロケットホイールを用いる場合には、しき等がかみ込まないようにカバーを取り付ける。
- 6) 下部にU型チェーンガイドを用いる場合は、チェーンの進行を円滑に行える構造にするとともに、チェーンがはずれることのないよう十分考慮したものとする。

(5) 軸

- 1) 主軸は機械構造用炭素鋼（S35C 以上）の 1 本物とし、十分な強度を有し、スプロケットホイールと軸はキーにて固定し、軸と軸受はスラストによって移動しないように強固に固定する。
- 2) 下部にスプロケットホイールを用いる場合、軸は機械構造用炭素鋼（S45C 又は片持方式で溶接構造の場合は S20C 以上）又はステンレス鋼（SUS403）製とする。軸に炭素鋼を使用する場合には、ステンレス鋼製スリーブを挿入し（供廻りのないよう考慮する）、耐摩耗性の向上を図るものとする。

(6) レーキ

- 1) レーキは、チェーンの全長にほぼ等間隔（約 3.0m 又はそれ以下）に取り付ける。
- 2) レーキの両側には、バースクリーンのピッチに適合したつめを切り、効率よくしきをかき取るとともにレーキが反転してしきを落とす構造とする。なお、レーキのかみ込み寸法は微調整できるようにする。
- 3) レーキは、特に堅固な構造とし、かき取ったしきがこぼれないような構造とする。

(7) スクリーン

- 1) スクリーンは、平鋼（FB75×9 以上）の歪みを確実に取除き、平鋼が等間隔になるようスペーサをはさみ、両ねじの通しボルトにて締付け組立てること。
- 2) スクリーンは、支持用形鋼にボルトを取り付けるものとする。
- 3) スクリーン下部は、レーキ通過のための開口があり、これをカバーするために除塵機下部に補助スクリーンを設けるものとする。
- 4) 補助スクリーンの構造は 1)、2) の仕様に準ずる。
- 5) 除塵機停止時には、しきの通り抜けが無いように、スクリーンと補助スクリーンにレーキがかみ合う一定位置でレーキが停止するよう、レーキ停止位置リミットスイッチを設ける。

(8) 給油装置

- 1) かき揚げ装置各部の軸受には給油配管を設ける。
- 2) 給油方式は、グリースガンとし、給油しやすい位置にグリースニップルを設けること。
- 3) 給油口から各軸受までの配管は、水中部ステンレス管（SUS304）、その他は被覆銅管（Cu-T）及び耐圧ゴムホースとする。
- 4) 配管は、必要箇所を堅固に支持固定し、支持材を防食処理する。テークアップ等移動する軸受にはできる限りフレキシブル管を使用する。
- 5) 池内配管は、フレーム内に納め、流木等による破損を防止する。

(9) 引上装置

- 1) 本装置は巻取ドラム、駆動装置、架台、ワイヤーロープよりなるもので、自動除塵機本体を吊上げるために設置するものとする。
- 2) 引上速度は、1.0m/min 程度とする。
- 3) 強度計算は、全負荷荷重が片側に掛かったものとして計算を行なう。
- 4) 装置各部の強度は十分であっても、腐食および摩耗の恐れがある部分は肉厚を考慮する。
- 5) 駆動装置は電動機直結サイクロ減速機を使用し、減速機及び電動機は屋外型、電動機はブレーキ付を使用する。
- 6) 巻取ドラムは、駆動軸にキーにて固定するものとし、ドラム形状は円板形とする。
- 7) ワイヤーロープはステンレス製を使用し、十分な安全率を見込むものとする。なお、最小ロープ径は 10mm 以上とする。
- 8) 維持管理時の安全の為、手動式の休止装置を設置すること。
- 9) 本装置は、除じん機本体を水路の高水位以上の高さまで吊上げるものとする。

6. 使用材料

使用材料は次による。

- | | | |
|------------------|-----------------------------------|--------------------------|
| (1) フレーム | 形鋼及び鋼板 | (SS400) |
| (2) かき揚げ用チェーン | ブシュドローラチェーン、
又はブシュドチェーン | (ステンレス鋼) |
| (3) スプロケットホイール | ステンレス鋳鋼
ダクタイル鋳鉄製
(歯面ステンレス鋼) | (SCS2 以上)
(FCD600 以上) |
| (4) 軸 | 機械構造用炭素鋼 | (S35C 以上又は SUS403) |
| (5) レーキ | 形鋼及び鋼板他 | (SS400) |
| (6) スクリーン | 形鋼 | (SS400) |
| (7) その他接水要部 | (ピン、ボルト、スペーサ、
通しボルト等) | (SUS304) |
| (8) 引上装置巻取ドラム | 形鋼及び鋼板他 | (SS400) |
| (9) 引上装置架台 | 形鋼及び鋼板他 | (SS400) |
| (10) 引上装置ワイヤーロープ | | (SUS304) |

7. 保護装置

(1) 電氣的保護装置

過負荷防止用過電流検出器（電気設備工事）

(2) 機械的保護装置

過負荷防止用減速機内蔵トルクリミッタ（除じん機用）

過負荷防止用減速機内蔵トルクリミッタ（引上装置用）
過上限リミットスイッチ（引上装置用）

8. 試験・検査

機械設備工事必携による。

9. 塗 装

機械設備工事一般仕様書による。

10. 据 付

機械設備工事必携によるほか次の点に留意する。

- 1) フレーム及びスクリーンは、指定された取付角度に正確に据え付ける。
- 2) フレームとスクリーンの据え付けは、相対的な位置を十分考慮し、かき揚げ時レーキとスクリーンの噛み合いに支障のないよう十分注意する。
- 3) 据え付け後、分解点検が容易に出来るよう据え付け時に考慮する。
- 4) 接水部両サイドフレーム前面には、水流のよどみを防止するため傾斜板を取り付ける。

11. 他工事との区分

(1) 土木、建築工事との区分

- 1) コンクリート躯体にアンカーボルトにて固定する各機器の、アンカーボルト用穴開け研り及びその復旧工事は本工事に含む。
- 2) 据付け部、水路底仕上用モルタル、埋込み用モルタル、各機器据付調整用モルタルは本工事に含む。

(2) 電気設備工事との区分

端子箱及び端子箱までのケーブルは、本工事に含むものとし、それ以降の配線接続は電気設備工事とする。

12. 標準付属品

- | | | |
|--------------------|----|---|
| (1) 点検架台（除塵機、引上装置） | 各1 | 式 |
| (2) 基礎ボルト・ナット | 1 | 式 |
| (3) 端子箱（除塵機、引上装置） | 各1 | 式 |

13. 特記事項

点検架台(除塵機)の下は維持管理動線となるため、人の通行が可能な形状とすること。

§3 コンテナ

1. 使用目的

コンテナは、自動除塵機で掻き揚げたし渣を貯留、搬出するのを目的とする。

2. 仕 様

項 目	仕 様	備 考
(1) 形 式	台車付きステンレス製コンテナ	
(2) 寸 法	幅 1000mm×長さ 1000mm×高さ 500mm	(参考)
(3) 数 量	2 台	

3. 構造概要

本コンテナは、スクリーンかすの貯留、搬出に使用するものとし、手押し台車の上に乗せ、任意に取り付け、取り外しができる構造とする。

4. 製作条件

- (1) コンテナは、ホイストで任意に吊上げ、吊下げができる構造とし、スクリーンかすが満杯時でも、十分な強度と剛性を有し、必要時には外部に放荷できるものとし、貯蓄中に混入する水を下部より排出できる構造とする。
- (2) 台車は、コンテナを安定して搭載できる大きさと強度を有し、コンテナから流出した水分を集めて、排出できる構造とする。

5. 各部の構造

- (1) コンテナは、原則として角型とし、底板に穴あき板を使用するなど水分が滞留しない構造とする。
- (2) コンテナは、単独で吊上げることができる構造とし、吊上げた状態で任意に放荷できるものとする。
- (3) 台車は、4 個のキャスター付（ストッパ付）とし、しが入ったコンテナを搭載した状態で、人力で容易に移動できるものとする。
- (4) 台車の床板は、流水勾配と全周縁付きとし、コンテナから流出した水分を集めて任意に排出できるものとする。

6. 使用材料

(1) コンテナ本体

- | | |
|---------|--------|
| 1) 本 体 | SUS304 |
| 2) 排出装置 | SUS304 |

- | | |
|----------|-------------|
| 3) 吊り金具 | SUS304 |
| (2) 台車 | |
| 1) 本 体 | SUS304 |
| 2) キャスター | SUS304+ウレタン |
| 3) 排出管 | SUS304 |

7. 検査・試験

一般事項は、機械設備工事一般仕様書に準拠する。

8. 標準付属品

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) コンテナ金具 | 1 式 |
| (2) コンテナ開閉装置 | 1 式 |
| (3) 水抜きバルブ、ノズル、ホース | 1 式 |